

火山調査研究推進本部政策委員会総合基本施策・調査観測計画部会
第 3 回調査観測計画検討分科会における
「噴火履歴・火山体構造等の基礎情報調査に関する
調査観測計画の要点（案）」に関する主な意見

火山調査研究推進本部政策委員会総合基本施策・調査観測計画部会第 3 回調査観測計画検討分科会における委員からの主な意見において、「基礎情報調査の要点（案）」に関連するものは以下のとおりである。要点の各項目（網かけ部分）に対する第 3 回分科会での意見を整理しリスト化した。

1) 基本的な考え方

実施目的

- ・火山体構造の基礎情報は、マグマだまりや熱水だまりの位置、浅部キャップロックの位置や形状、マグマや熱水の上昇経路であり、火山活動の状態把握や噴火の規模等の予測に貢献。

- ・構造調査が規模予測に寄与していく具体的な道筋が分からないため、表現を工夫してはどうか。
- ・「深部マグマ供給系や浅部構造などの火山活動を支配する場を調べる」とするなど、基礎情報調査のターゲットとするところを明確化してはどうか。

実施方針

- ・噴火履歴の基礎情報調査では、トレンチ調査やボーリング調査を活用し、最近約 1 万年以内の噴火履歴を高精度に復元。
- ・火山体構造の基礎情報調査では、陸域と海域の両方の主要な火山において、比抵抗構造探査、地震波構造探査、音波探査等によって、地殻内 (30 km 以浅) の火山体構造を調査。

- ・第 2 項目では「陸域と海域の両方の主要な火山において」とあるが、第 1 項目では陸域と海域の区別がない。履歴調査については、項目を一つ追加して海域の調査の方針を加えてはどうか。
- ・第 2 項目について、地殻内 (30km 以浅) の火山体構造の調査といっても漠然としているため、「深部マグマ供給系や浅部構造などの火山活動を支配する場を調べる」とするなど、基礎情報調査のターゲットとするところを明確化してはどうか。

3) 今後の計画

(噴火履歴)

- ・ 最近約 1 万年以内の噴火履歴情報を取得するためのトレンチ調査やボーリング調査を実施。

- ・ 項目を一つ追加して、海域での掘削調査やピストンコア調査も加えてはどうか。

(火山体構造)

- ・ 構造探査においては、地殻内（30 km以浅）の構造を調べるため、想定火口から半径 30 km以内を目安に観測点を展開。

- ・ 海域火山においては想定火口から 30km よりも広範囲での調査が必要な場合もある。

- ・ 具体的な観測点配置は想定される噴火様式に対応。

- ・ 可能であれば浅部の詳細な構造から深部まで把握する統一的な調査を行うとより良いものになると思うがどうか。

(上記への意見)

- ターゲットやポイントを絞った効率的な構造探査が現実的である。
- 効率的な構造探査を計画する観点からも「想定される噴火様式に対応」の内容は必要である。

(全体)

- ・ できる限り複数の探査手法を同じ火山において実施。

- ・ 調査観測の進め方として、調査準備と後処理が必要なため、複数年かけて調査を実施。

- ・ 基礎情報調査でも手法の標準化や統一的なデータ取得を考える必要あり。
- ・ 基礎情報を使いやすい形で流通させる必要あり。